

いつもありがとう！

新得水泳スポーツ少年団が「ビーバー」を清掃



新得水泳スポーツ少年団員や保護者など約40人が4月15日、半年ぶりのオープン(29日)を控えた町営温水プール「ビーバー」の清掃を行いました。

この活動は、技術向上のために練習できる環境に対し感謝の気持ちを込めて、毎年春(オープン)と秋(クローズ)の2回行われています。

今年は雪解けが遅く、周辺のごみ拾いができなかったため、施設正面の通路(東西約200m)のコケをスコップや細い木の枝などを使い、約1時間かけて取り除きました。

取り除かれたコケは、大きなごみ袋で6袋にのりましました。

新得の「食」で地域おこしを 勝毎フォーラム in 新得「食の力」



十勝毎日新聞移動編集局フォーラム in 新得「食の力」(新得町、十勝毎日新聞社主催)が4月12日に町公民館で開かれ、約100人が来場しました。

北海道ケータリングサービス社長・代表シェフの垣貫敬介氏が「新得町 未来につなぐ食のチカラ」と題し講演。「信念と情熱を持って、食とともに地域の産業全体を活性化させてほしい」などと話しました。

講演終了後はパネルディスカッションも行われ、宮嶋望共働学舎新得農場代表、今井崇敬今井商事代表、武田直幸十勝・新得フレッシュ地鶏事業協同組合代表、安田昌行加森観光サホロ事業部総支配人が「地場産品と町おこし」をテーマに意見を出し合いました。

災害時に迅速な燃料供給を 帯広地方石油業協同組合と協定締結



帯広地方石油業協同組合(高橋勝垣理事長)、同新得支部(平川勲支部長)と町は4月20日、「災害時における石油類燃料の供給等に関する協定」を締結しました。

この協定により、災害発生時に緊急車両や避難施設などへの燃料が優先的に供給されるほか、給油所を帰宅困難者のための一時受け入れ施設として提供されるなどの協力体制ができました。

現在、この協定の締結は道内各市町村で進められており、新得町は十勝管内で8番目の締結となりました。

新たなまちの「売り」を目指して グルメ品のレシピ開発が始動



商工会青年部(平川直樹部長)による新たな試みとして、グルメ品のレシピ開発が4月から始まりました。4月25日、保健福祉センターにて試作品の試食会が行われ、約20人が新たな新得の「売り」となる可能性を秘めた3品を試食し、優しくも厳しい目で評価をしました。

この日出されたのは、地鶏と鹿肉を使用した「肉じゃが丼」と「肉ギョーザ」に加え、鹿肉・アスパラガス・ゆり根などを使用し、麺にそば粉を入れたスパゲティ「蕎麦スパ」(いずれも仮称)。商工会青年部員は、この日参加者に行ったアンケートをもとに、ゼロからの見直しも含めて検討・改良に取り組み、レシピ化へ向けて日々努力を重ねています。



食事準備の様子

平成22年度からスタートした「パパママサポート」事業。産前・産後のお母さんの体調が回復するまでの間、サポーター(有償ボランティア)が依頼者のご家庭に伺い、簡単な家事支援や育児のお手伝いを行います。現在までの利用は3件で、登録しているサポーターは5人です。

家事支援(食事の準備や片づけ、買い物、簡単な掃除など)や育児支援(授乳介助、おむつ交換や沐浴介助、兄弟のお世話など)を1回2時間程度(30分からでも利用可能)、1時間400円で利用することができます。

産前・産後の家事や育児困っていませんか？

パパママサポートにお任せ！

見ず知らずの方にお手伝いしてもらおうのは色々心配や不安があるかと思いますが、そういった不安を解消するために、申請を受けた後に保健師とのサポートの具体的な内容の打ち合わせ、さらに保健師とサポーターで顔合わせ訪問を行い、安心して利用いただけるようにしています。また、サポーターは子育て経験者で研修を受けた方が登録しています。

実際に、掃除や食事の準備で利用された方は「実家が遠く、親戚などが近くにいないので、とても助かっています。何度も利用しています」とお話しされていました。

また、サポーターのおしゃべりも気分転換になり、料理のレシピや子育ての経験談などを聞いたり楽しい時間を過ごしていらつしやいます。

利用条件などのお問い合わせは、保健福祉課健康推進係6410533、屈足支所6512111まで。

★現在サポーターを募集しています！子育て経験者であれば、どんなでも申込み可能ですので、興味ある方は右記までご連絡ください。

町社協の小規模多機能センター

「らら」が4月16日にオープン



「らら」のダイルームで元気に体操をする利用者

町社会福祉協議会(古川盛会長)が、屈足旭町2丁目に建設していた小規模多機能センター「らら」が3月末に完成し、オープンしました。

同施設は、通所、訪問、相談、泊まりの介護サービスを行う小規模多機能センターのほか、自分のことは自立してできる高齢者や障がい者を対象にした共生型福祉住宅「ひだまり」、ボランティア活動や町内会活動などに利用できる地域交流ホーム「ゆつたり」の3施設を一体化した複合施設です。

建物は木造平屋建ての695㎡で、総事業費は約1億7千万円。利用者の方々が安心して快適に暮らせる生活空間の確保を目的に、



落成記念式典で式辞を述べる町社協の中村幸一副会長

4月11日には、関係者や来賓50人が出席し、落成記念式典が行われました。町社協の中村幸一副会長が施設の概要を説明し、「住み慣れた地域で安全安心に暮らして行けるよう、利用者のいやしの空間となれば」と式辞を述べました。

佐藤幸子施設長は「笑って元気、食べて元気、話して元気」をモットーに、高齢者の皆さんがここに来て楽しんでもらうこと、笑ってもらえるような施設とすることが一番。食事も地元の食材にこだわり、利用者に喜んでいただいている。家庭の茶の間にいるような感覚で過ごせる空間を目指したい」と話しています。